教育用「心理尺度データベース」の改訂（2006年版）*

永 田 忠 夫・新 美 明 夫

The Construction of Psychological-scale Database for Students (Second Edition)

Tadao Nagata ・ Akio Niimi

Ⅰ．目的

文化創造学部、コミュニケーション学部、医療福祉学部等では，心理学的研究方法（観察・調査・面接・実験等）を用いた卒業研究・論文・レポートを作成させる授業科目が数多く開講されている。2001年版の教育用「心理尺度データベース」は、上記のような授業科目の実施の際に，学生の自主的学習を促し、学習意欲を動機づけ、限られた授業時間のなかでより学問的な成果が生み出せるような教育媒体の創出，およびそれを用いた教育方法の改善を目的として作成された（永田・新美,2001）。この「心理尺度データベース」は、同年に本学のＬＡＮ上で公開され，本学のＬＡＮの利用資格があれば，学内で利用可能となっている。

この「心理尺度データベース」の目指す目標は次のようなものであった。それは多くの学生が気軽にいつでも試行錯誤的に学内ＬＡＮを通して検索でき、自己の興味関心のあるテーマが心理学的研究としてどのような位置づけとなるのかを自ら検討できることである。すなわち、自分のテーマはこれまでの研究ではどのような質問項目で調査されてきたのか、あるいはその研究で利用された尺度が自分の研究対象としての変数（心理的概念）を十分測定できるものなのか，などを確認する作業が能率よく進めることができることである。またその結果、具体的質問項目を通して自己の研究対象となる心理的概念を明確にしたり、新たな心理的概念を測定する心理尺度を作成したりするのに役立つことになる。

５年間の公開利用を経て、今回2001年版の「心理尺度データベース」の改訂（2006年版）を行った。改定の目的は、その後に収集した心理尺度データを追加登録して量的に充実させるとともに、より教育的な利用ができるような「心理尺度データベース」としての質的な改善をすることである。また、多数の学生が円滑に利用できるようにハード面の拡充もおこなった。

まず、「心理尺度データベース」の量的な充実に関しては、これまでの収録論文 502論文、収録尺度 645尺度に対し、 518論文、 768尺度のデータが追加され、改訂後の「心理尺度デ

* この研究は、平成16・17年度愛知淑徳大学研究助成（共同研究）を受けた。

ータベース」収録論文は 968論文、収録尺度は、1413尺度となった。

つぎに、「心理尺度データベース」の質的な改善に関しては、尺度の「領域」を再整理することにより、より学生が便利に利用でき、学習効果を上げることができるような工夫を試みた。

学生がこの「心理尺度データベース」を利用する必要性が生じるのは、心理学を基盤とした基礎的演習、心理学の方法論を学ぶ演習、そして卒業研究の際である。このような演習や研究を行うに当たって、学生は、学生自身の個人的・日常的な興味関心や自己の生活体験・経験、これまで受講した心理学関連の授業等あるいは自己学習で読んだ文献等を通して得た人間の意識・行動についての疑問や課題を取り上げ、研究テーマにすることが多い。その際、学生が思いつくテーマを心理学的研究となるようなテーマにしていく必要がある。しかし、学生が自分の想起した疑問や課題を研究の際に用いられる心理学概念・用語として置き換えることができなかったり、興味関心を持っているテーマについて心理学領域ではどんなことが研究対象として扱われているのかを知らなかったりするために、なかなか演習課題が進められないことが生じる。本学の図書館では、「基礎資料リスト：パスファインダー」に入門書や概論書、事典・辞書あるいは関連研究雑誌などの情報が集められているし、「蔵書検索：ＯＰＡＣ」の利用も有効であるが、それでも授業の進度の時間的制約を考慮すると学生たちが効率よく調べたいテーマに関する文献情報収集や尺度項目収集がおこなえる教材が必要である。

そこで今回の改訂では、尺度の「領域」の内容構成を変更・工夫すること、および尺度の「領域」のキーワードをなるべく学生の発想に近いものにする配慮をした。自己のテーマにしようとしている内容やテーマをめぐって想起されるキーワードが、これまでなされてきた心理学領域のどこに位置づけられ、その領域内ではどのような心理学用語・概念が取り扱われているかをたどっていけ、自分のテーマとこれまの心理学研究に用いられている用語・概念との一致の程度が即座に確認できる、といったことをより可能となるように工夫した。

これまでの分類法は、大・中・小の3層にし、大分類は、個人の内面的な意識過程「個人」、他者の認知や他者との関係のもちかたなどの対人過程「対人関係」、社会生活をしている人々の心理過程「社会生活」、社会生活をしていく上で心理的な適応がうまくいかない状態における適応過程「精神的健康」の4分類であった。「個人」の中分類は、自己、発達、性格・能力、認知判断傾向、欲求・動機、感情・気分の6分類であり、「対人関係」の中分類は、他者認知・好意、対人態度、対人行動、コミュニケーションの4分類と対人関係が行われる場すなわち家族、学校、職場の3領域の分類および友人関係を加えた計8分類とした。「社会生活」の中分類は、価値観、態度、ライフスタイルという様相による3分類と、集団、家庭、職業、教育、地域、社会的活動、マスメディアの社会生活場面・領域による7分類の計10分類にした。「精神的健康」の中分類は、適応、ストレス、不安・恐怖、問題行動の4分類であった。

しかし、学生が研究・課題のテーマを考える際の発想傾向として、具体的な生活経験の中から、自分や他者（個人）のこころの問題、人間関係（対人関係）の問題、家族や学校（集団生活）での問題、日常生活（社会生活）から気づいた問題といった生活領域の分類からなされることが多い。そうした学生の傾向に即して、生活領域から徐々にテーマを絞っていける分類基準に変えた。また、学生の思いつくテーマに即して検索できるように、検索ワードを多くした。さらには、学生が検索して調べているワードが心理学の研究領域の中でどの位置づけにあるのか、どの生活領域のどのレベルの問題にあたるのかを分類の層をみることによって理解できるようにした。

Ⅱ.「心理尺度データベース」（改訂：2006年版）の作成

1. 文献の収集と登録

心理尺度データベースの選択基準として、尺度を構成する質問項目の原文と回答形式が書かれていることおよび学術雑誌に掲載された尺度であること（市販された書籍に掲載されたり、市販されたりしている尺度でないこと）とした。

従来の「心理尺度データベース」には、「心理学研究（1970～1998）、教育心理学研究（1961～1997）、社会心理学研究（1985～1998）、実験社会心理学研究（1972～1997）、年報社会心理学研究（1969～1983）、教育社会心理学研究（1961～1969）、および論文集、短期大学・大学の紀要等合計 502論文が登録されていた。

改訂「心理尺度データベース」では、「心理学研究（1970～2005）、教育心理学研究（1961～2005）、社会心理学研究（1985～2005）、実験社会心理学研究（1972～2005）の論文追加と新しく発達心理学研究（1990～2005）、家族心理学研究（1987～2004）の論文が選定・登録された。さらにその他論文集、短期大学・大学の紀要等も追加登録され、合計 968論文となった。

2. 収集データ情報の構成内容

データベースを構成する内容は、掲載文献を示す「著者」「発行年」「論文題目」「掲載雑誌名および巻・頁」、尺度構成内容を示す「尺度名」「尺度構成内容（下位尺度名）」「尺度を構成する質問項目」および「質問項目への回答形式」、心理尺度の作成過程を理解したり心理尺度が備えるべき基本的条件を学習できたりするように尺度作成過程での情報である「対象者の発達段階」「属性と人数」「尺度を構成するための検討データ（因子分析等）」「標準化あるいは尺度得点結果（平均値・標準偏差等）」「尺度の信頼性検討データ（α係数等）」「妥当性の検討データ（他の尺度との相関関係等）」「尺度の出典情報」「文献所在情報」等である。

収集文献から得られた上記情報に、データベース作成者が独自に作成した尺度の「領域」を付加した。

3. データベースの公開

従来、長久手キャンパス新美研究室［415研］に設置していたサーバーをリプレースし、さらに星が丘キャンパス永田（忠夫）研究室［1608研］にサーバーを追加設置し、同時利用者数の上限を撤廃した。これによって本学の学生がいつでも「心理尺度データベース」を検索できる態勢を整えた。

Ⅲ. 心理尺度データベースの内容

1. 心理尺度データベースに収録した論文・尺度数

「心理尺度データベース」の収録論文は 968件、収録尺度1413件であり、その学術雑誌内訳は、表1に示すようである。

表１　収録論文・尺度数

掲載誌名	論文数	尺度数
心理学研究	167	203
教育心理学研究	274	417
社会心理学研究	91	148
実験社会心理学研究	69	102
発達心理学研究	49	80
家族心理学研究	40	76
教育社会心理学研究	5	5
年報社会心理学	11	13
日本教育心理学会発表論文集	2	2
日本社会心理学会発表論文集	52	59
日本グループダイナミックス学会発表論文集	6	6
名古屋大学教育学部紀要	52	87
名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要	43	71
愛知淑徳大学論集	7	10
愛知淑徳短期大学研究紀要	13	29
その他紀要等	87	105
合計	968	1413

2. 領域の分類

全尺度を人の生活領域によって分類した。そして大分類・中分類・小分類・細分類の4層に分類した。しかし、学生ができるだけ検索しやすいようにするため、概念のヒエラルキーや分類の基準をあまり統一的にあるいは厳密に考えないで分類した。下線を引いたキーワードは、尺度の「領域」で検索できるキーワードである。

大分類の分類基準は、人の生活領域をシステムレベルによって、個人システム、2者間システム、集団システム、社会システムとした。ただし、心理尺度が作成されている対象領域・分野を考慮し、また、学生が検索する際に思いつきやすいキーワードを念頭に、<u>個人</u>、<u>対人関係</u>、<u>集団生活（家族）</u>、<u>集団生活（学校）</u>、<u>集団生活（職場）</u>、<u>集団生活（小集団）</u>、<u>社</u>

会生活の7分類にした。

中分類の分類基準は、システムレベルの特徴やそれぞれの領域における心理学的視点・分類を考慮し、しかも基礎的な心理学用語であり学生が検索しやすいワードで分類した。

個人領域は、個人の内的過程である自己、性格・能力、感情・気分、欲求・動機、発達過程をとらえる指標としての発達段階、適応過程を単に適応とし、6分類にした。

対人関係は、対人態度としての他者への関心、対人認知、対人感情、対人行動の4分類、相互過程としての関係のもち方、コミュニケーション、関係の認知の3分類、対人適応を適応とし、合計8分類にした。

集団生活は、家族・学校・職場・小集団それぞれの集団の機能、集団の構造、集団の評価、集団内における集団内行動、対人関係、適応、の6分類である。

社会生活は、メディアを介した生活に関するメディア接触、社会生活への態度に関する社会への意識・態度、地域への意識・態度、社会的行動、社会的自己意識、個人生活への態度に関する生活意識・生活態度、ライフスタイル、宗教、適応過程としての社会適応の9分類にした。

小分類は、中分類や細分類のキーワードの意味内容の幅やキーワードの量を勘案して、中分類と細分類をつなぐキーワードを用いて分類した。小分類については、学生が検索しやすいであろう用語を使用するように心がけた。

細分類は、作成された代表的な心理尺度名やそれと同一測定内容の尺度を合併してキーワードを作成した。

3. 尺度の「領域」の分類結果

尺度の「領域」の分類をおこなった結果、大分類においては、個人 330尺度［構成比率(以下同じ)23.4%］、対人関係 281尺度［19.9%］、集団生活（家族） 161尺度［11.4%］、集団生活（学校） 282尺度［20.0%］、集団生活（職場）54尺度［ 3.8%］、集団生活（小集団）10尺度［ 0.7%］、社会生活 295尺度［20.9%］であった（表2～8参照）。表中｛　｝内に書かれた言葉は、説明のための付加情報であり、検索できるキーワードではない。

1）個人

個人の尺度内容をさらに中・小分類した結果、次のようになった（表2参照）。細分類については、表2に最右列に示した（以下、細分類は表2～8の最右列に示してある）。

「自己」は、88尺度（自己概念12尺度、自己意識24尺度、自己認知・評価43尺度、自己受容 9尺度）、「性格・能力」は、68尺度（気質 2尺度、自我 3尺度、主義 9尺度、性格18尺度、特性・傾向36尺度）、「感情・気分」は、54尺度（感情47尺度、気分 5尺度、身体感覚 2尺度）、「欲求・動機」は、34尺度（動機22尺度、欲求・願望12尺度）、「発達段階」は、44尺度（乳幼児期 4尺度、幼児期・児童期 1尺度、児童期・青年期 1尺度、青年期 5尺度、青年期（前・中期） 1尺度、青年期（中期） 1尺度、青年期（後期）22尺度、青年期・成人期 2尺度、青年

期・老年期 1尺度、成人期 3尺度、老年期 3尺度）、「適応」は、42尺度（状態11尺度、対処能力・特性26尺度、対処法・方略 5尺度）であった。

表２　個人の分類表

個人	内的過程	自己（88）	自己概念	(12)	自己拡張, 2／日本的自己, 3／
			自己意識	(24)	私的－公的自己意識, 9／自己評価的意識, 2／自己形成意識, 1／自己決定意識, 2／内省傾向, 1／自己没入, 1／自我同一性, 2／自我体験, 1／自己目標志向, 1／自己認識欲求, 3／
			自己認知・評価	(43)	自己認知, 7／イメージ, 6／自尊感情, 18／自己肯定, 4／安定性, 4／独立・相互依存的自己理解, 1／生活感情, 2／現実と理想, 1／
			自己受容	(9)	
		性格・能力（68）	気質	(2)	
			自我	(3)	自我機能, 1／自我強度, 2／
			主義	(9)	完全主義, 2／権威主義, 6／集団主義, 1／
			性格	(18)	新性格検査, 1／Big Five, 6／エゴグラム, 1／アイゼンク, 2／タイプA, 3／姉妹型性格, 1／性格表現, 3／文章完成法, 1／
			特性・傾向	(36)	自己愛, 9／シャイネス, 3／不安, 3／自己実現, 2／原因帰属, 4／自己効力感, 2／行動特性, 2／楽観性, 1／希望特性, 1／熟慮性・衝動性, 1／認知様式, 1／開放性－閉鎖性, 1／創造的態度, 1／批判的志向態度, 1／不合理的信念, 1／頭のよさ, 1／失敗傾向, 1／（ダウン症児の母）, 1／
		感情・気分（54）	感情	(47)	孤独感, 20／絶望感, 2／疎外感, 2／自己嫌悪感, 4／罪悪感, 1／怒り, 6／安堵感, 1／不快感情, 2／恥, 1／非現実感, 1／違和感, 1／
			気分	(5)	
			身体感覚	(2)	入眠感, 2／
		欲求・動機（34）	動機	(22)	達成動機, 10／親和動機, 3／変化動機, 1／勢力動機, 2／成功回避動機, 1／接近－回避動機, 1／有効性動機, 1／リアクタンス, 3／
			欲求・願望	(12)	承認欲求, 1／賞賛欲求, 1／認知欲求, 1／刺激欲求, 2／完結欲求, 1／独自性欲求, 4／地位上昇欲求, 1／痩身願望, 1／
	発達過程	発達段階（44）	乳幼児期	(4)	乳幼児期発達, 2／人見知り, 1／感情, 1／
			幼児期・児童期	(1)	社会成熟度, 1／
			児童期・青年期	(1)	心理・社会的発達, 1／
			青年期	(5)	危機状態, 1／実存的空虚感, 1／心理的離乳, 1／性同一性, 1／独立意識, 1／
			青年期（前・中期）	(1)	危機状態, 1／
			青年期（中期）	(1)	実存的不安, 1／
			青年期（後期）	(22)	自我同一性, 14／モラトリアム, 1／一体・分離, 1／基本的信頼感, 1／時間的展望, 1／充実感, 1／心理的離乳, 1／生理的変化, 1／独立意識, 1／
			青年期・成人期	(2)	一体・分離, 1／時間的展望, 1／
			青年期・老年期	(1)	時間的展望, 1／
			成人期	(3)	自我同一性, 2／成人特性, 1／
			老年期	(3)	自我同一性, 1／回想, 2／
	適応過程	適応（42）	状態	(11)	心身健康, 2／神経症, 1／成功恐怖, 2;（生起因 1）／精神障害病状, 1／抑うつ, 5／
			対処能力・特性	(26)	コンピテンス, 6／セルフコントロール, 2／ハーディネス, 1／レジリエンス, 1／建設的思考, 1／自己制御能力, 2／社会的問題解決能力, 1／統制感, 10／性格特性, 1／児童の適応, 1／
			対処法・方略	(5)	セルフハンディキャッピング, 3／クリティカルシンキング, 1／意識的防衛, 1／

2）対人関係

対人関係の尺度内容をさらに中・小分類した結果、次のようになった（表3参照）。

「他者への関心」は、6尺度、「対人認知」は、22尺度、「対人感情」は、33尺度、「対人行動」は、47尺度（{対他者一般}32尺度、対友人 4尺度、対異文化人 3尺度、対異性 2尺度、対ダウン症児 1尺度、特性・傾向 2尺度、欲求・動機 3尺度）、「関係のもち方」は、39尺度（{関係一般}13尺度、日本的関係 4尺度、友人関係16尺度、異性関係 3尺度、特性・傾向 3尺度）、「コミュニケーション」は、80尺度（スキル55尺度、表出行動24尺度、欲求・動機 1尺度）、「関係の認知」は、 7尺度（異性関係 2尺度、友人関係 1尺度、勢力関係 2尺度、治療者・被治療者関係 2尺度）、「適応」は、47尺度（状態22尺度、ストレッサー 4尺度、認知的評価 1尺度、対処能力・特性 2尺度、対処法・方略18尺度）であった。

3）集団生活（家族）

集団生活（家族）の尺度内容をさらに中・小分類した結果、次のようになった（表4参照）。

「集団の機能」は、51尺度（出産 2尺度、養育16尺度、家庭内ケア 3尺度、家庭教育 1尺度、親の成長・発達15尺度、役割 8尺度、家事分担 6尺度）、「集団の構造」は、 9尺度（リーダーシップ・規範 5尺度、勢力構造 3尺度、母娘システム構造 1尺度）、「集団の評価」は、26尺度、「対人関係」は、57尺度（対人認知 4尺度、対人感情11尺度、対人行動 6尺度、関係のもち方10尺度、コミュニケーション 7尺度、関係の認知19尺度）、「適応」は、18尺度（状態10尺度、対処能力・特性 1尺度、ストレス反応 7尺度）であった。

4）集団生活（学校）

集団生活（学校）の尺度内容をさらに中・小分類した結果、次のようになった（表5参照）。

「集団の機能」は、 107尺度（学習45尺度、教育15尺度、社会性の獲得 7尺度、進学 7尺度、職業選択28尺度、親・地域社会との連携 2尺度、役割機能 3尺度）、「集団の構造」は、30尺度（リーダーシップ・規範14尺度、支援ネットワーク 7尺度、勢力構造 6尺度、組織の構造 3尺度）、「集団の評価」は、26尺度、「集団内行動」は、 3尺度（学校生活経験 1尺度、クラブ活動 2尺度）、「対人関係」は、21尺度（対人認知 5尺度、対人感情 1尺度、対人行動 9尺度、関係のもち方 3尺度、コミュニケーション 1尺度、関係の認知 2尺度）、「適応」は、95尺度（状態50尺度、ストレッサー13尺度、認知的評価 1尺度、対処能力・特性14尺度、対処法・方略 9尺度、対処行動 2尺度、ストレス反応 6尺度）であった。

5）集団生活（職場）

集団生活（職場）の尺度内容をさらに中・小分類した結果、次のようになった（表6参照）。

表３　対人関係の分類表

対人関係	対人態度	他者への関心　（ 6 ） ｛ 他者意識 ｝	（ 6）	他者意識(異性), 1／親和志向(異性), 1／期待表明(友人), 1／役割期待(友人), 2／　(障害者への関心) , 1／
		対人認知　（ 22 ） ｛ 他者評価 ｝	(22)	イメージ, 9; (女性2, 友人2, クライエント1, 障害者1, 美人1)／相貌, 2／性格, 11; (いじめの被害者1, ダウン症児1,　外国人1)／
		対人感情　（ 33 ） ｛ 他者に対する感情 ｝	(33)	親密さ, 2／愛着, 2／甘え, 1／魅力, 2／信頼感, 4／罪悪感, 1／疎外感, 1／心理的負債感, 4／否定的感情, 3／好意(女性), 1／満足感(友人), 2／恋愛(異性), 2／妬み, 3／不安(異性), 1／　(友人) 1／
		対人行動　（ 47 ） ｛ 他者に対する行為 ｝	｛ 対他者一般 ｝　(32)	ソーシャルサポート, 15; (サポート獲得方策1, 電話利用1)／愛他行動, 1／援助行動, 10; (感情1, 規範意識1, 場面1, 態度2, 動機3, 方法1, 要請1)／依存行動, 1／攻撃, 5／
			対友人　（ 4）	交友行動, 4; (関係維持理由1) ／
			対異文化人　（ 3）	交流意図, 2／交流体験内容, 1／
			対異性　（ 2）	恋愛行動, 1／
			対ダウン症児　（ 1）	働きかけ, 1／
			特性･傾向　（ 2）	思いやり, 1／対人志向性, 1／
			欲求・動機　（ 3）	対人欲求, 2／対人動機, 1／
	相互過程	関係のもち方　（ 39 ）	｛ 関係一般 ｝　(13)	愛着スタイル, 7／依存3, ; (自立1, 欲求1)／相互協調･相互独立, 1／他者軽視, 1／　(虐待児の対人関係), 1／
			日本的関係　（ 4）	間人, 2／
			友人関係　(16)	期待, 1／友人ルール, 1／目標志向, 1／異文化人, 2／
			異性関係　（ 3）	期待, 1／態度, 1／恋愛関係スタイル, 1／
			特性･傾向　（ 3）	対人的構え, 2／対人特性1, ／
		コミュニケーション （ 80 ）	スキル　(55)	共感性, 18／受容, 1／情動への関心, 1／自己主張, 2／セルフモニタリング, 8／ノンバーバルスキル, 2／社会的スキル, 10／対人スキル, 3／意識的配慮, 3／クリティカルシンキング, 1／パースペクティブ･テイキング, 1／交渉方略, 1／文章作成方略, 3／会話, 1／
			表出行動　(24)	自己開示, 10／自己呈示, 4／自己表明, 1／感情表出, 1／文章産出, 1／会話, 4／発話傾向, 1／手話, 1／姿勢, 1／
			欲求・動機　（ 1）	
		関係の認知　（ 7 ）	異性関係　（ 2）	愛情, 1／満足度･重要度, 1／
			友人関係　（ 1）	親密性, 1／
			勢力関係　（ 2）	
			治療者･被治療者関係（ 2）	
	対人適応	適応　（ 47 ）	状態　(22)	対人不安, 5／対人恐怖, 4／コミュニケーション不安, 4／対人距離葛藤, 1／「個一関係」葛藤, 1／あがり, 3／介護負担感, 1／障害者の対人葛藤, 1／妄想観念, 2／
			ストレッサー　（ 4）	対人ストレス, 3／対人葛藤, 1／
			認知的評価　（ 1）	対人ストレス, 1／
			対処能力･特性　（ 2）	自己効力感, 2; (対人事態1, 障害者との交流1)／
			対処法・方略　(18)	社会的情報処理(対人ストレス), 1／相互援助(対人ストレス), 1／自己主張(挑発場面), 3／支援的ユーモア(ネガティブ事象), 1／随伴性（無気力), 1／対人ストレス, 3／対人葛藤, 1／あがり, 1／心理的距離困難, 1／他者の不快感情, 1／低自己評価, 1／失恋, 1／恋愛関係崩壊, 2／

表4　集団生活(家族)の分類表

集団生活（家族）	集団としての家族	集団の機能　（51） ｛家族の機能｝	出産　（2）	子どもの価値,2／
			養育　(16)	しつけ,5;(方略1)／育児観,1／託児感情,1／子ども観,1／養育態度,5／性役割養育態度,2／学歴志向,1／
			家庭内ケア　（3）	意識,1／感情,2／
			家庭教育　（1）	幼児期,1／
			親の成長・発達　(15)	母性意識,2／母性観,1／母性性獲得,1／母役割受容,1／親になる意識,1／親同一性,1／母親同一性,1／障害児の受容,1／父親の成長,2／(筋ジス児の親),1／
			役割　（8）	親役割,2／祖父母役割,1／母役割,2／女性役割達成感,1／夫への役割期待,1／夫婦の役割期待,1／
			家事分担　（6）	夫婦の分担,2／父親の分担,3／母親の分担,1／
		集団の構造　（9） ｛家族の構造｝	リーダーシップ・規範（5）	親のリーダーシップ(PM機能),2／家族ルール,2／規範,1／
			勢力構造　（3）	ヒエラルキー,1／夫婦の勢力関係,1／父親の勢力資源,1／
			母娘システム構造　（1）	
		集団の評価　（26） ｛家族の評価｝	(26)	家族機能,13／凝集性,2／信頼感,1／満足度,4／雰囲気,2／家族成員間のサポート,2／家族イメージ,1／コミュニケーション風土,1／
	対人関係	対人関係　（57） ｛家族内の対人関係｝	対人認知　（4）	親のイメージ,1／母のイメージ,1／父のイメージ,1／子どもの行動,1／
			対人感情　(11)	親とのきずな,1／親への愛着,2／親への信頼感,1／娘の母への愛情,1／娘から見た父親の魅力,1／母の父子への愛着,1／夫婦の愛情,2／夫婦の親密さ,1／夫婦の満足度,1／
			対人行動　（6）	ケア,3／養育行動(母),2／ソーシャルサポート(母娘間),1／
			関係のもち方　(10)	親子関係,5／父子関係,2／娘母関係,1／夫婦関係,2／
			コミュニケーション（7）	スキル,3;(夫婦2)／スタイル(夫婦),3／自己表出(母の自己開示),1／
			関係の認知　(19)	親子関係,4;(親疎性1)／夫婦関係,6;(衡平性3,安定性1,機能1)／父子関係,1／母子関係,2;(密着1)／孫・祖父母関係,1／両親間の関係,5／
	適応	適応　（18） ｛家族内適応｝	状態　(10)	育児ストレス,4;(母親3,父母1)／育児困難感(母親),1／母親の分離不安,1／母子間コミュニケーション不全感,1／養育不安(母親),1／仕事と家庭葛藤,2;(父親1,父母1)／
			対処能力・特性　（1）	社会的スキル,1／
			ストレス反応　（7）	夫不在状態,3／配偶者との死別状態,2／生活ストレス状態,1／筋ジス児養育状態,1／

「集団の機能」は、13尺度（職務 8尺度、キャリア 3尺度、社内教育 1尺度、福利厚生 1尺度）、「集団の構造」は、 8尺度（リーダーシップ・規範 8尺度）、「集団の評価」は、 9尺度、「対人関係」は、 6尺度（対人認知 2尺度、対人感情 1尺度、関係のもち方 1尺度、関係の認知 2尺度）、「適応」は、18尺度（状態11尺度、ストレッサー 4尺度、対処法・方略 2尺度、ストレス反応 1尺度）であった。

表５　集団生活(学校)の分類表

集団生活（学校）	集団としての学校	集団の機能　（107） ｛学校の機能｝	学習　(45)	学習目標, 4／学習動機, 12／学習意欲, 2／動機づけ, 10／学習方略, 13／学習成果, 4／
			教育　(15)	教育目標, 1／教育信念, 1／指導論, 2／学習指導, 3／授業の仕方, 2／学習評価, 3／教育効果, 1／教師の成長, 1／コンピュータ教育, 1／
			社会性の獲得　(7)	社会的責任, 4／社会的望ましさ, 1／道徳, 2／
			進学　(7)	受験, 2／進学動機, 5／
			職業選択　(28)	就業自己イメージ, 1／就業動機, 4／就職活動, 3／就職観, 1／職業観, 2／職業志向, 4／職業レディネス, 4／職業興味, 2／職業選択課題, 1／選択の模索, 2／職業生活態度, 1／職務能力, 3／
			親・地域社会との連携（2）	地域社会との交流, 1／父母の学校に対する態度, 1／
			役割機能　(3)	学生の役割, 1／教師の役割, 1／教師の自尊感情, 1／
		集団の構造　（30） ｛学校の集団構造｝	リーダーシップ・規範 (14)	チームワーク, 1／リーダーシップ, 11;（教師4, 校長1, 校長・教頭・主任1, 主将5）／規範(官僚制志向), 1／集団参加, 1／
			支援ネットワーク　(7)	コーディネーション, 4／学校カウンセラー, 3／
			勢力構造　(6)	教師の勢力資源, 3／教師の勢力・人気資源, 1／児童の勢力人気資源, 1／生徒の勢力資源, 1／
			組織の構造　(3)	学級集団構造, 1／組織化(サークル), 1／特性, 1／
		集団の評価　（26） ｛学校の評価｝	(26)	教育環境, 1／イメージ, 2;（学科1, 学校1）／学級雰囲気, 3／楽しさ, 1／気分, 1／風土, 4;（学級1, 学校組織2, クラブ1）／凝集性(サークル), 1／講義の意義, 2／生徒文化, 1／満足度, 2;（学校生活1, クラブ1）／モラール, 8;（教師1, 職員1, 児童1, 学校4, クラブ部員1）／
	行動	集団内行動　（3） ｛学校内の行動｝	学校生活経験　（1）	
			クラブ活動　（2）	積極性, 1／達成動機, 1／
	対人関係	対人関係　（21） ｛学校内の対人関係｝	対人認知　（5）	教師認知, 2／不登校生徒評価, 1／生徒・児童認知, 1／児童認知, 1／
			対人感情　（1）	チームメイトへの満足感, 1／
			対人行動　（9）	サポート, 3;（母親サポート1, 児童サポート1, 校長の教師サポート1）／学生の自立支援, 1／利己・利他的行動, 1／自尊行動, 2／学業援助要請, 2／
			関係のもち方　（3）	学生・教師関係, 1／校長・教師関係, 1／先輩・後輩関係, 1／
			コミュニケーション　（1）	スキル(エンパワーメント;教師), 1／
			関係の認知　（2）	児童・教師関係, 2／
	適応	適応　（95） ｛学校内適応｝	状態　(50)	生きがい感, 1／学校適応, 5／学業, 1／大学生活適応, 2／学部適応, 1／学級適応, 1／対人適応, 1／クラブ適応, 2／算数不安, 1／数学不安, 1／日本語不安, 1／中学校入学不安, 1／あがり(生起因), 1／教育実習不安, 1／授業の不満, 1／生徒の悩み, 1／登校拒否, 2／不登校, 2／無気力, 9／いじめ, 4／就職不安, 1／職業未決定, 3;（生起因1）／職場ストレス(教師), 3／指導上の悩み(教師), 1／バーンアウト(教師), 3／
			ストレッサー　(13)	学業ストレス, 1／学校ストレス, 6／留学生活, 1／ライフイベント, 3／職務ストレス(教師), 2／
			認知的評価　（1）	学校ストレス, 1／
			対処能力・特性　(14)	学業コンピテンス, 1／学校生活スキル, 1／社会的スキル, 2／学習関連人格特性, 1／自己効力感, 8;（学習1, 交流1, 進路選択4, 職務;教師2）／社会一課題志向(学習), 1／
			対処法・方略　（9）	原因帰属, 3;（テスト結果1失敗・成功2）／学業ストレス, 1／学校ストレス, 1／学習ストレス, 1／テスト, 1／受験, 1／精神薄弱児指導(教師), 1／
			対処行動　（2）	テスト状態, 1／問題行動(教師), 1／
			ストレス反応　（6）	学校ストレス状態, 4／学業ストレス状態, 1／テスト不安状態, 1／

表6　集団生活(職場)の分類表

集団生活（職場）	集団としての職場	集団の機能　（13） ｛職場の機能｝	職務	（8）	仕事の特性, 2／動機づけ, 1／満足度, 5／
			キャリア	（3）	形成サポート, 1／地位形成, 1／動機, 1／
			社内教育	（1）	訓練, 1／
			福利厚生	（1）	メンタルヘルス施策, 1／
		集団の構造　（8） ｛職場の集団構造｝	リーダーシップ・規範	（8）	マネージメント, 1／リーダーシップ, 6;（PM機能2, 資質1, 行動1）／意思決定参加, 1／
		集団の評価　（9） ｛職場の評価｝		（9）	就労環境, 5;（性差別レベル1, 就労意欲1, 職業志向性1）／風土, 2;（職場環境1, メンタルヘルス1）／コミットメント, 1／モラール, 1／
	対人関係	対人関係　（6） ｛職場内の対人関係｝	対人認知	（2）	上司認知, 1／同僚認知(期待される女性イメージ), 1／
			対人感情	（1）	患者への感情, 1／
			関係のもち方	（1）	同僚関係, 1／
			関係の認知	（2）	上司・同僚関係, 1／上司・部下関係, 1／
	適応	適応　（18） ｛職場内適応｝	状態	（11）	職場適応, 1／職務適応, 2／セクシャルハラスメント, 2／バーンアウト, 5／対人苦手意識, 1／
			ストレッサー	（4）	キャリアストレス, 1／職務ストレス, 3／
			対処法・方略	（2）	上司への取り入り(職場適応), 1／創造的態度(職場適応), 1／
			ストレス反応	（1）	職務ストレス状態, 1／

6）集団生活（小集団）

集団生活(小集団)の尺度内容をさらに中・小分類した結果、次のようになった(表7参照)。

「集団の構造」は、3尺度（リーダーシップ・規範 3尺度）、「集団の評価」は、 5尺度、「集団内行動」は、 2尺度であった。

表7　集団生活(小集団)の分類表

集団生活（小集団）	小集団	集団の構造 （3） ｛小集団の構造｝	リーダーシップ・規範 （3）	リーダーシップ（PM機能）, 1／集団参加, 1／閉鎖性, 1／
		集団の評価 （5） ｛小集団の評価｝	（5）	コミュニケーション, 1／集団関係, 1／凝集性, 1／集団自尊心, 1／集合的自己高揚, 1／
	行動	集団内行動 （2） ｛小集団内行動｝	（2）	キャンプ体験, 1／仕切り行動, 1／

7）社会生活

社会生活の尺度内容をさらに中・小分類した結果、次のようになった（表8参照）。

「メディア接触」は、19尺度（メディア嗜好性 1尺度、コンピュータ 4尺度、ウェブ日記 2尺度、携帯メール 1尺度、電話 4尺度、雑誌 1尺度、テレビ 1尺度、マニュアル 3尺度、情報探索 1尺度、環境問題 1尺度）、「社会への意識・態度」は、42尺度（異文化間 5尺度、社

会的態度 5尺度、政治的態度10尺度、社会意識 4尺度、階級・階層意識 2尺度、社会認識 9尺度、認知・評価 7尺度）、「地域への意識・態度」は、14尺度（住民の態度 5尺度、住民意識 5尺度、認知評価 4尺度）、「社会的行動」は、37尺度（向社会的行動15尺度、日常的行動 8尺度、非日常的行動12尺度、臨床活動 2尺度）、「社会的自己意識」は、 2尺度、「生活意識・生活態度」は、 110尺度（生活意識 7尺度、ライフイベント13尺度、価値観11尺度、生き方 8尺度、性役割49尺度、{その他}22尺度）、「宗教」は、 7尺度、「社会適応」は、40尺度（状態17尺度、ストレッサー 3尺度、認知的評価 3尺度、対処法・方略14尺度、対処行動 2尺度、ストレス反応 1尺度）であった。

表８－１　社会生活の分類表（その１）

社会生活	メディア	メディア接触	メディア嗜好性	(1)	
			コンピュータ	(4)	イメージ, 2／人間関係, 1／不安, 1／
			ウェブ日記	(2)	効用, 1／開始動機, 1／
			携帯メール	(1)	
			電話	(4)	電話観, 2／コミュニケーション懸念, 1／テレフォンクラブ, 1／
			雑誌	(1)	
			テレビ	(1)	視聴動機, 1／
			マニュアル	(3)	欲求, 1／利用志向, 2／
			情報探求	(1)	
			環境問題	(1)	
	社会生活への態度	社会への意識・態度(42)	異文化間態度	(5)	コスモポリタニズム, 2／ナショナリズム, 1／民族同一性, 1／
			社会的態度	(5)	概念(ＳＤ法), 1／
			政治的態度	(10)	政治的知識, 2／
			社会意識	(4)	
			階級・階層意識	(2)	
			社会認識	(9)	社会的認識, 2／社会考慮, 3／公正世界信念, 1／リスク認識, 2／身体部位移植知識, 1／
			認知・評価	(7)	社会イメージ, 1／社会認知, 1／信頼感, 2／世代イメージ, 1／政府への信頼, 1／2000 年問題, 1／
		地域への意識・態度(14)	住民の態度	(5)	環境問題, 3／地域社会, 1／河川, 1／
			住民意識	(5)	河川, 1／環境問題, 1／連帯意識, 1／
			認知・評価	(4)	地域の青少年指導, 1／地域生活変化, 1／地域防災, 2／
		社会的行動 (37)	向社会的行動	(15)	順社会的行動, 2;（動機 1）／ボランティア, 2;（活動成果 1, 活動動機 1）／介護（評価）, 1／環境配慮行動, 3;（意図 1）／環境保護行動, 2／リサイクル行動（行動評価）, 1／
			日常的行動	(8)	空間活動, 3／購買行動, 1／日常活動, 1／社会的行動ルール, 1／運転（心理的状況）, 1／方向感覚, 1／
			非日常的行動	(12)	裁判, 3;（裁判官評価 1, 裁判費用 1, 裁判動機 1）／信号無視（規範意識）, 2／迷惑行為, 2;（認知 1, 許容度 1）／逸脱行為, 2;（認定的歪曲 1）／リスクテイキング行動, 1／意思決定, 2／
			臨床活動	(2)	治療（自律訓練の治療効果）, 1／相談（意味内容）, 1／
		社会的自己意識 (2)		(2)	性的マイノリティ, 1／聴覚障害者アイデンティティ, 1／

表8-2　社会生活の分類表（その2）

社会生活	個人生活への態度	生活意識・生活態度	生活意識	(7)	生活時間の流れ, 4／勤労者の生活意識, 1／女性の職業意識, 1／女性の生活意識, 1／
			ライフイベント	(13)	結婚観, 3／恋愛観, 3／離婚観, 2／職業観, 2／死, 2／死別, 1／
			価値観	(11)	シュプランガー, 2／モリス, 2／日本的, 1／反近代的価値, 1／
			生き方	(8)	人生目標, 2／人生の目的, 1／QOL, 1／望む生き方, 1／時間的信念, 1／
			性役割	(49)	女性性・男性性, 18／性役割態度, 5／男女平等態度, 3／役割認知, 3／性役割志向, 3／役割期待, 4／性役割の受容, 1／女の社会的役割, 2／性別の受容, 4／性差, 2／女性管理職, 2／脱男性, 2／
			{その他}	(22)	性, 4／お金, 3／喫煙, 2／道徳, 1／礼儀, 1／科学技術のイメージ, 1／情報化社会, 1／社会的地位イメージ, 1／障害者観, 1／エイズ・エイズ患者, 1／身体部位提供, 1／同性愛, 1／死刑, 1／ペット, 1／社会的感受性テスト評価, 1／睡眠時の夢イメージ, 1／
		ライフスタイル (24)	幼児期	(1)	自然遊び体験, 1／
			青年期	(12)	プライバシー志向, 2／享楽志向, 1／個人・社会志向, 1／人並み志向, 1／人並み・平準化志向, 2／生活リズム, 1／朝型-夜型睡眠, 1／ユーモア志向, 1／
			青年期・成人期	(3)	娯楽・趣味, 1／都市型生活, 1／個人・社会的志向, 1／
			成人期	(4)	ゆとり, 1／女性のライフスタイル, 1／キャリア意識, 1／
			老年期	(3)	社会的ネットワーク, 1／生活観, 1／生活志向, 1／
			{一般}	(1)	住ライフスタイル, 1／
		宗教 (7)		(7)	情操, 2／行為, 2／宗教心, 1／心理的操作, 1／カルト教団, 1／
	適応	社会適応 (40)	状態	(17)	well-being , 2／幸福感, 2／人生満足度, 1／生活満足感, 1／生活ストレス, 2／障害者の生活ストレス, 1／日常バーンアウト, 1／異文化適応, 3／日本社会への適応, 4／
			ストレッサー	(3)	ライフイベント, 3／
			認知的評価	(3)	ストレス状態, 3／
			対処法・方略	(14)	気晴らし, 2;（ストレス1, 悩み1）／受容・持続（ネガティブ事象）, 1／人生回想, 1／ストレス, 5／ライフイベント, 1／介護ストレス, 1／危機事象, 1／自我阻害場面, 1／統制不可能事態, 1／
			ストレス反応	(1)	地震状態, 1／
			対処行動	(2)	ストレス, 2／

4. 調査対象者の発達段階と尺度の領域の分類との関係

「対象者発達段階」と「尺度の領域」の検索ワードを組み合わせて調査対象者の発達段階別に各尺度領域に属する尺度数を調べた結果が表9である。

1) 幼児期

幼児を質問項目等の回答者として用いられた尺度は、10尺度（個人 6尺度［構成比率（以下同じ）60.0%］、集団生活（家族） 2尺度［20.0%］、集団生活（学校） 2尺度［20.0%］）であった。

2) 児童期

児童を調査対象者とする尺度は、150尺度(個人33尺度[22.0%]、対人関係24尺度[16.0%]、集団生活（家族）23尺度［15.3%］、集団生活（学校）55尺度［36.7%］、集団生活（小集団）3尺度［ 2.0%］、社会生活12尺度［ 8.0%］であった。

3) 青年期

中学生を調査対象者とする尺度は、197尺度(個人45尺度[22.8%]、対人関係37尺度[18.8%]、集団生活（家族）21尺度［10.7%］、集団生活（学校）69尺度［35.0%］、集団生活（小集団）1尺度［ 0.5%］、社会生活24尺度［12.2%］であった。

高校生を調査対象者とする尺度は、131尺度(個人39尺度[29.8%]、対人関係21尺度[16.0%]、集団生活（家族）12尺度［ 9.2%］、集団生活（学校）28尺度［21.4%］、社会生活31尺度［23.7%］であった。

大学生を調査対象者とする尺度は、 721尺度（個人 227尺度［31.5%］、対人関係 191尺度［26.5%］、集団生活（家族）32尺度［ 4.4%］、集団生活（学校）84尺度［11.7%］、集団生活（職場） 5尺度［ 0.7%］、集団生活（小集団） 5尺度［ 0.7%］、社会生活 177尺度［24.5%］であった。

4) 成人期

成人を調査対象者とする尺度は、432尺度(個人59尺度[13.7%]、対人関係44尺度[10.2%]、集団生活（家族） 112尺度［25.9%］、集団生活（学校）64尺度［14.8%］、集団生活（職場）52尺度［12.0%］、集団生活（小集団） 1尺度［ 0.2%］、社会生活 100尺度［23.1%］であった。

成人期の母親が対象者となった尺度は、54尺度（個人 7尺度｛ただし、乳幼児についての調査 4尺度を含む｝、対人関係 5尺度、集団生活（学校） 1尺度、集団生活（家族）36尺度、社会生活 5尺度）、父親が調査対象者となった尺度は、15尺度（個人 1尺度、集団生活（家族）14尺度）、教師が調査対象者となった尺度は、37尺度（個人 1尺度、集団生活(学校)35尺度、社会生活 1尺度）であった。

5) 老年期

老年者を調査対象者とする尺度は、37尺度(個人11尺度[29.7%]、対人関係 5尺度[13.5%]、集団生活（家族） 4尺度［10.8%］、社会生活17尺度［45.9%］であった。

表9　発達段階別にみた「領域の尺度」の件数

大分類	中分類	幼児期	児童期	青年期			成人期	老年期
				中学	高校	大学		
	総件数	10	150	197	131	721	432	37
個人	自己	2	10	19	13	65	8	3
	性格・能力		5	4	6	43	20	2
	感情・気分		3	5	6	40	7	
	欲求・動機		7	3	1	26	2	1
	発達段階		1	7	9	33	11	4
	適応	4	7	7	4	20	11	1
対人関係	他者への関心			1	1	3	1	
	対人認知			1	1	17	3	
	対人感情		3	7	5	25	4	1
	対人行動		6	5	3	26	11	3
	関係のもち方		1	7	4	25	10	
	コミュニケーション		10	10	5	57	7	1
	関係の認知			1	1	5	3	
	適応		4	5	1	33	5	
集団生活（家族）	家族の機能	1	4	3	1	5	43	
	家族の構造	1	2		1	2	7	
	家族の評価		6	3	3	14	14	1
	家族内の対人関係		8	12	5	11	33	1
	適応		3	3	2		15	2
集団生活（学校）	学校の機能		19	18	19	42	22	
	学校の構造		9	6	4	3	13	
	学校の評価	1	7	6		8	5	
	学校内行動					2		
	学校内の対人関係		4	4		4	10	
	適応	1	16	35	5	25	14	
集団生活（職場）	職場の機能						13	
	職場の構造					1	8	
	職場の評価						9	
	職場内の対人関係					1	6	
	適応					3	16	
集団生活（小集団）	集団の構造			1		1	1	
	集団の評価		2			3		
	集団内行動		1			1		
社会生活	メディア接触		1			5	12	4
	社会への意識・態度			8	8	34	10	
	地域への意識・態度			1	1	1	14	2
	社会的行動		4	3	2	22	13	
	社会的自己意識					1	1	
	生活意識・生活態度		6	7	12	72	29	5
	ライフスタイル			2	3	16	8	2
	宗教		1	1	3	1	3	
	社会適応			2	2	25	10	4

Ⅳ．学生の心理尺度データベース利用について（指導に際しての留意点）

この心理尺度データベースは教育用を第一目的としており、学生が自分の研究の進み具合にあわせて、いつでも学内ＬＡＮをとおして活用できるものであることをめざしている。その一助として、マニュアル「心理尺度データベースの利用方法」を作成し、ＰＤＦファイルとして提供することにした。また、同一の内容をウェッブ形式でも閲覧できるようにし、いずれもデータベースのトップページにリンクを置いた。データベースの具体的な利用方法についてはこれらを参照されたい。心理尺度データベースは、学内ＬＡＮ上のＰＣからのみ利用可能であり、トップページへのアクセスには、「http://10.11.51.7/」を入力されたい（図1参照）。

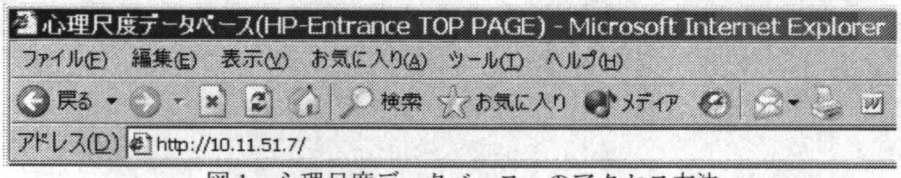

図１　心理尺度データベースへのアクセス方法

学生がこのデータベースを利用する際には、キーワードを用いた検索作業が中心になるが、学生にとっては適切なキーワードを想起することがなかなか困難であり、尺度名のフィールドで何回かの試行後、該当する尺度が出てこない、と判断してそれ以上の作業を中止してしまうことも多い。そのような場合には「領域」のフィールドによる検索が有用である。その際に、この心理尺度データベースに用いられている「領域」分類を参照して、自分が焦点をあてている心理特性がどの領域に分類されうるかを検討させてほしい。尺度の「領域」の分類の項で述べたように、分類には、学生が利用しやすいような用語を極力利用しているので、自分の想起したキーワードに近いものが見つかるはずである。こうすることによって、学生が自分の研究テーマの位置づけを明確にすることにも役立つと思われる。この作業を容易なものにするため、心理尺度データベースのトップページに、領域分類の一覧表を別ウィンドウに表示するリンクを設置した。検索作業の際には、検索ウィンドウと切り替えることによって、いつでも参照することができる。

データベースに収録されている情報だけでは、その尺度の取り上げている心理的概念や、その概念と尺度を構成している質問項目との関係、さらには背景となっている理論を理解するには不十分である。このデータベースを学生に利用させる際には、学生が自分の関心にあう心理尺度を見つけた場合には必ず元文献を手に入れて学習させる必要がある。さらに、参考にした心理尺度については必ずその旨を作成する論文等に記載するよう指導されたい。

文献

永田忠夫・新美明夫　2002　心理尺度データベースの作成－学内ＬＡＮ上での教育的利用のために－
愛知淑徳大学論集－文化創造学部篇－　第2号　59-80